七　成相道・裏山陰道

山東町野間から夜久野ケ原に上がり茶堂の前を超えて夜久野町に入る道、いわゆる西国三十三ケ所巡礼の道である。

「なりあいみち」と呼ばれたくさんの道しるべやお地蔵様が道の追分（おいわけ）や要所に置かれている。

このいわゆる巡礼道は、姫路の二十七番書写山円教寺と丹後の二十八番成相寺を結んでいるのである。朝来市内にも「右なりあい道」と刻まれた立石や地蔵様がたくさんある。磯部郷を通るこの道は、京都から因幡へ向かう「裏山陰道」であり、城崎温泉に向かう「湯島みち」でもある。目的によって呼び方も変わるのである。夜久野町額田あたりではこの裏山陰道を「但馬街道」とも呼んでいる。いずれにしても夜久野ケ原を通る旅人は、水の確保などで苦労したようである。

三十三ケ所の観音霊場巡りは平安時代後期から始まっているが、巡礼が盛んになったのは江戸時代になってからのようである。庶民が簡単に旅ができなかった江戸時代、伊勢参りや観音霊場巡りは旅を楽しむ格好の理由となっていたようである。高原を各地の情報を持った旅人が往来し、その話は金浦地区の住民にとって貴重な情報源であったに違いない。